

14. RI lymphography (第2報)

小林 光昭 中西 敬 沖田 功
末富 一臣 永野巳喜雄 桜井 孝
(山口大・放)

^{198}Au -colloid と $^{99\text{m}}\text{Tc}_2\text{S}_7$ colloid の RI lymphography について検討した. ^{198}Au -colloid の場合は, colloid 粒子が小さく拡散率がよく para aortic, liver の描出は良いが, 局所被曝線量が大きい. Scanning 時期は注射後3時間以降, 24時間

まで可能である. $^{99\text{m}}\text{Tc}_2\text{S}_7$ -colloid は粒子が大きく拡散率が悪く腹部の scintigram は骨盤部に要する時間の数倍を必要とする. また scanning 時期は注射後2時間が最良である, $^{99\text{m}}\text{Tc}_2\text{S}_7$ -colloid は, 半減期が短く, 他の検査に支障をきたさない. Scintigram からは, 像の非対称性, 各リンパ節群の radio activity の差, 異常部位の集積あるいは欠損が診断基準として挙げられ, 肝陰影の濃度からリンパ動態も推察される. 以上から RI lymphography は, 有意な検査であると考えた.